



機械受注統計調査報告

平成26年8月実績



平成26年10月

内閣府経済社会総合研究所

景気統計部

目 次

平成26年8月の機械受注動向	
(1) 需要者別受注動向（季節調整値）	1
(2) 民需の業種別受注動向（季節調整値）	1
(3) 販売額、受注残高、手持月数（季節調整値）	1
〈参考1〉 需要者別の機械受注動向（原数値）	6
〈参考2〉 機種別の受注額、販売額、受注残高（原数値）	7
統 計 表	9

（ 調 査 の 概 要 ）

本調査は、機械等製造業者の受注した設備用機械類について、毎月の受注実績を調査したものであり、調査対象は主要機械等製造業者、調査時点は毎月末日である。

昭和62年4月実績より、調査対象社数を202社（うち機械製造業者178社）から308社（同280社）に増加させるとともに、調査内容を拡充した280社ベースの調査に移行した。

平成23年4月調査より、日本標準産業分類の改定（平成19年11月）に準拠して、需要者分類を変更した。なお、公表については季節調整に必要なデータが蓄積されるまでの当分の間、従来分類と接続可能な移行表章による（巻末の別紙参照）。この間、新分類による計数は統計表のなかで参考表章する。また、機種分類の「通信機」に含まれていた「携帯電話」を調査対象から外した。

（ 使 用 上 の 注 意 ）

1. 平成元年4月調査の実績額から、すべて消費税を除くベースで調査している。
2. 本調査は、毎年3月調査の時点で季節調整値の改訂を行っている。季節調整方法は、X-12-ARIMAの中のX-11を使用している。
ただし、平成23年3月調査より、携帯電話を除く3項目の受注額（民需（携帯電話を除く）、民需（船舶・電力・携帯電話を除く）、非製造業（船舶・電力・携帯電話を除く））について、23年4月調査より、受注総額、製造業、非製造業、官公需、外需、代理店についてRegARIMAを利用した季節調整を検討し、適用している。検討結果については、巻末を参照。
3. 統計表の増加率は比較される二つの計数の増（減）分を前期（前年同期）の計数で機械的に除したものである。
4. 「携帯電話」については平成17年度より調査を行ってきたため、平成16年度以前については、「携帯電話」を除いた系列を計算することはできない。このため、平成23年4月調査以降、本調査は平成17年度開始となる。

平成 26 年 8 月の機械受注動向

(1) 需要者別受注動向（季節調整値）

最近の機械受注の動向をみると、受注総額は、26 年 7 月前月比 13.5%減の後、8 月は同 2.2%減となった。

需要者別にみると、民需は、7 月前月比 16.4%増の後、8 月は同 12.4%減となった。このうち、民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」は、7 月前月比 3.5%増の後、8 月は同 4.7%増となった。内訳をみると製造業が同 10.8%減、非製造業（船舶・電力を除く）が同 10.7%増であった。

一方、官公需は、7 月前月比 9.3%増の後、8 月は運輸業で増加したものの、国家公務、地方公務等で減少したことから、同 29.9%減となった。

また、外需は、7 月前月比 42.6%減の後、8 月は重電機、鉄道車両で減少したものの、産業機械、船舶等で増加したことから、同 29.1%増となった。

なお、最終需要者が不明である代理店経由の受注は、7 月前月比 2.3%増の後、8 月は工作機械、鉄道車両等で増加したものの、道路車両、産業機械等で減少したことから、同 3.6%減となった。

(2) 民需の業種別受注動向（季節調整値）

製造業からの受注を前月比で見ると、合計では、7 月 20.3%増の後、8 月は 10.8%減となった。

8 月の受注を業種別にみると、前月比で増加したのは 15 業種中、パルプ・紙・紙加工品(145.6%増)、非鉄金属(48.4%増)、「その他輸送用機械」(43.2%増)等の 4 業種で、石油製品・石炭製品(82.2%減)、化学工業(50.1%減)、精密機械(16.2%減)、金属製品(14.1%減)、一般機械(7.6%減)、食品製造業(6.4%減)等の 11 業種は減少となった。

一方、非製造業からの受注を前月比で見ると、合計では、7 月 13.7%増の後、8 月は 12.7%減となった。

8 月の受注を業種別にみると、前月比で増加したのは 12 業種中、リース業(219.9%増)、鉱業・採石業・砂利採取業(195.6%増)等の 3 業種で、電力業(49.9%減)、金融業・保険業(19.4%減)、農林魚業(9.0%減)、不動産業(5.5%減)、通信業(4.7%減)等の 9 業種は減少となった。

(3) 販売額、受注残高、手持月数（季節調整値）

8 月の販売額は 1 兆 9,155 億円（前月比 9.1%減）で、前 3 か月平均販売額は 2 兆 209 億円（同 2.0%減）となり、受注残高は 26 兆 8,773 億円（同 0.1%増）となった。この結果、手持月数は 13.3 か月となり、前月差で 0.3 か月増加した。

第1表 主要需要者別機械受注額

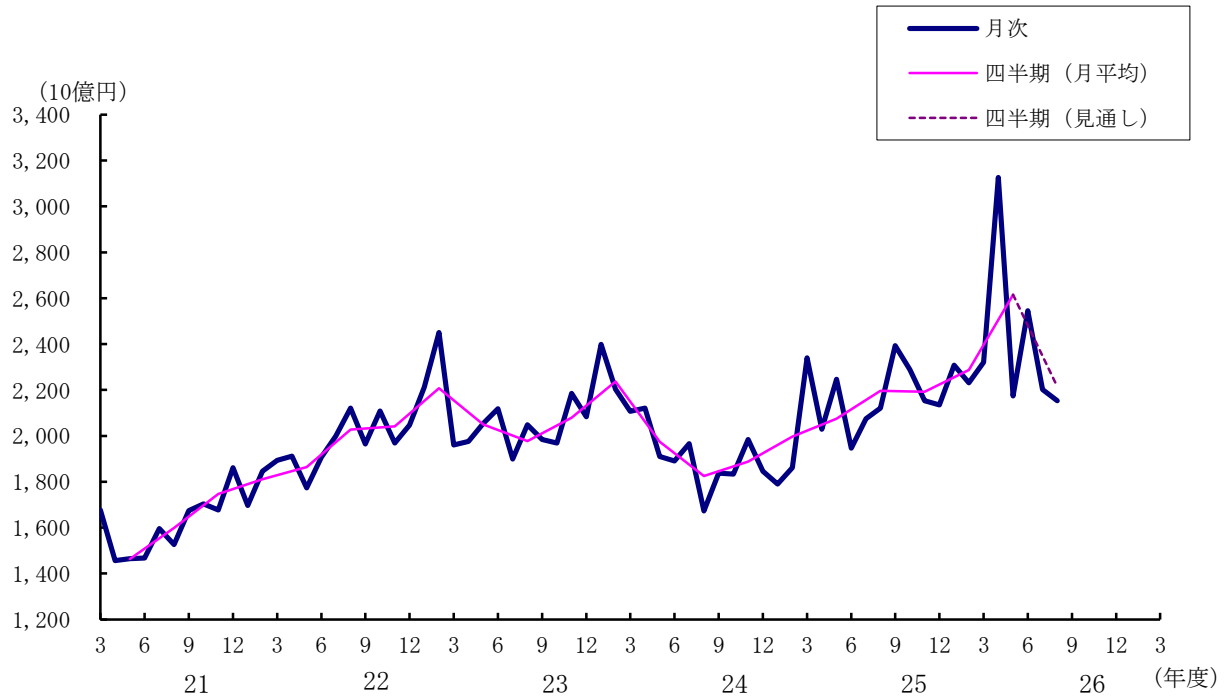
(単位：億円，%)

期・月 需要者	平成25年 7～9月	10～12月	平成26年 1～3月	4～6月	平成26年 5月	6月	7月	8月
受注総額	65,886 (5.9) [21.4]	65,764 (-0.2) [15.9]	68,594 (4.3) [10.8]	78,446 (14.4) [26.9]	21,735 (-30.5) [-2.6]	25,451 (17.1) [30.3]	22,013 (-13.5) [6.1]	21,527 (-2.2) [0.4]
民需	28,259 (5.1) [9.9]	28,822 (2.0) [14.0]	30,577 (6.1) [18.5]	27,527 (-10.0) [2.1]	8,472 (-19.6) [-9.0]	8,513 (0.5) [-4.9]	9,906 (16.4) [7.0]	8,678 (-12.4) [-8.2]
〃 (船舶・電力を除く)	23,997 (4.8) [9.6]	24,442 (1.9) [13.3]	25,474 (4.2) [16.4]	22,824 (-10.4) [-0.4]	6,853 (-19.5) [-14.3]	7,458 (8.8) [-3.0]	7,717 (3.5) [1.1]	8,078 (4.7) [-3.3]
製造業	9,633 (8.1) [8.2]	9,829 (2.0) [14.8]	10,213 (3.9) [22.1]	9,343 (-8.5) [4.1]	2,835 (-18.6) [-3.8]	3,024 (6.7) [-1.3]	3,639 (20.3) [13.4]	3,246 (-10.8) [2.5]
非製造業 (船舶・電力を除く)	14,344 (-0.2) [10.4]	15,052 (4.9) [12.4]	14,898 (-1.0) [11.8]	13,905 (-6.7) [-3.1]	4,270 (-17.8) [-19.9]	4,441 (4.0) [-4.1]	4,250 (-4.3) [-7.4]	4,704 (10.7) [-7.0]
官公需	9,197 (8.8) [34.0]	8,135 (-11.5) [14.4]	7,196 (-11.5) [-9.1]	9,374 (30.3) [11.8]	3,637 (22.4) [9.5]	2,766 (-24.0) [6.4]	3,024 (9.3) [6.1]	2,119 (-29.9) [-22.8]
外需	27,009 (10.7) [34.7]	25,814 (-4.4) [18.4]	27,499 (6.5) [12.8]	39,111 (42.2) [61.0]	8,737 (-45.9) [-0.2]	14,226 (62.8) [87.5]	8,169 (-42.6) [4.4]	10,547 (29.1) [14.9]
代理店	2,884 (7.7) [4.6]	3,076 (6.7) [16.2]	2,833 (-7.9) [-6.3]	3,037 (7.2) [13.0]	1,009 (2.2) [9.0]	1,041 (3.1) [7.9]	1,065 (2.3) [11.3]	1,027 (-3.6) [5.3]

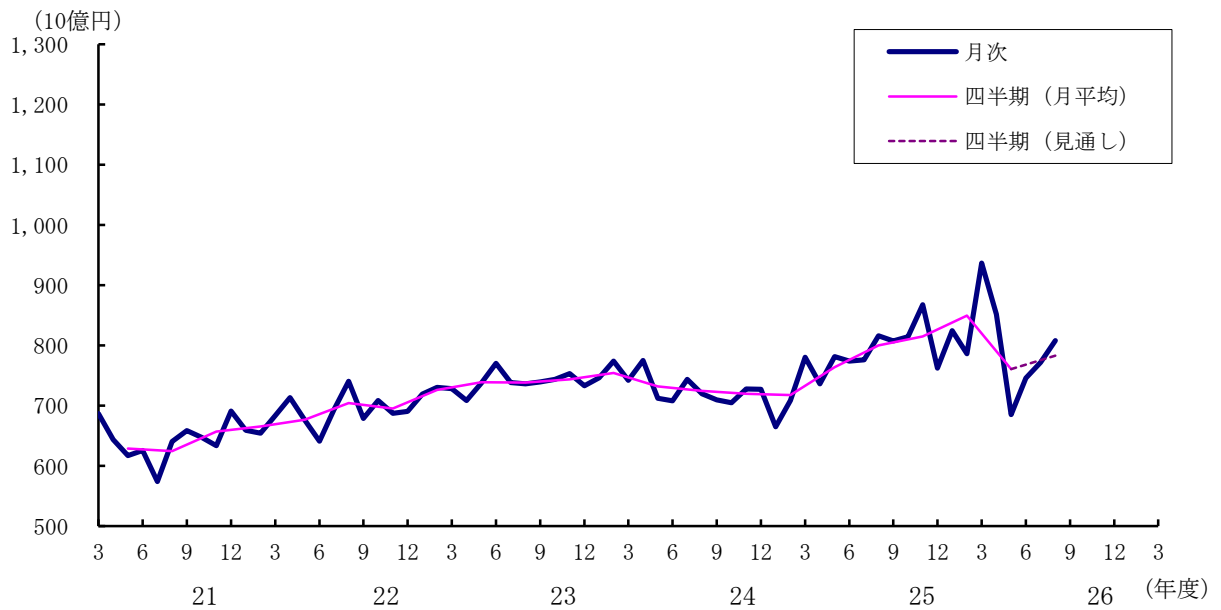
(備考) 1. 季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

2. 四半期は合計額、()内は対前期(月)増減率、[]内は原系列による対前年同期(月)増減率。

第1図 機械受注総額



第2図 民需（船舶・電力を除く）



(備考)

1. 四半期 (月平均) は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示 (例えば7～9月の月平均値は8月の位置に表示)。
2. 「26年7～9月(見通し)」の計数は、「見通し調査 (26年6月末時点)」の季節調整値を3で割った数値。

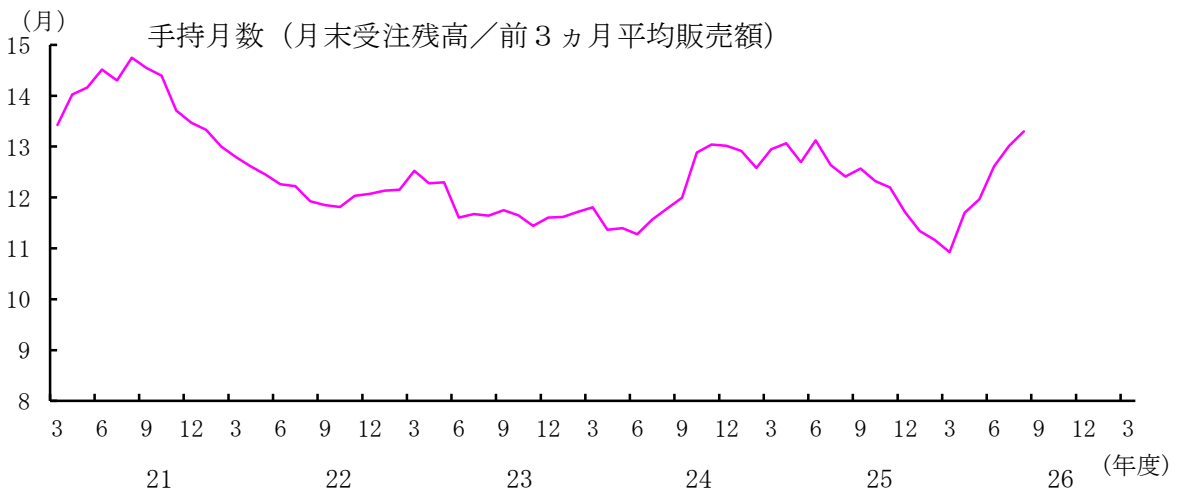
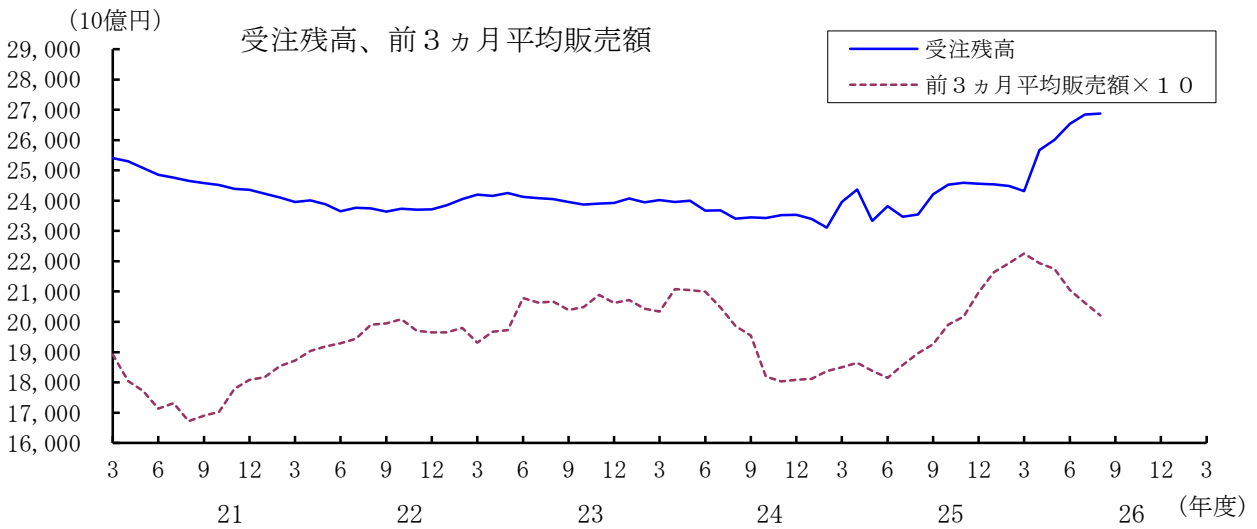
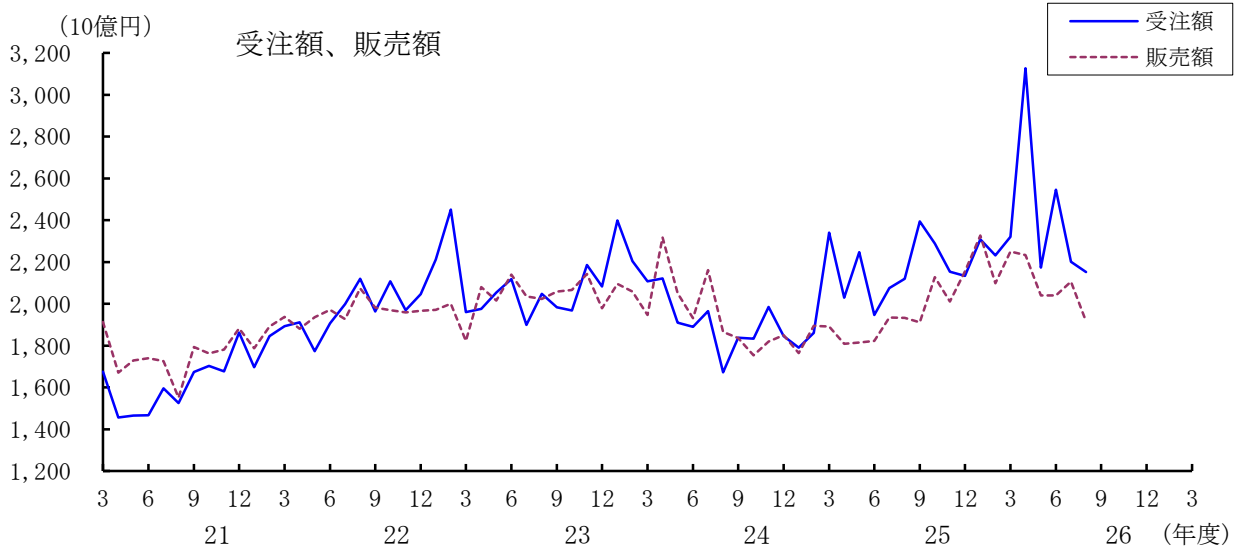
第2表 民需の業種別機械受注の伸び

(単位：%)

需要者	期・月	平成25年				平成26年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	5月	6月	7月	8月
I 製造業計		8.1	2.0	3.9	-8.5	-18.6	6.7	20.3	-10.8
1 食品製造業		7.1	0.9	1.1	-28.5	-24.7	-2.5	19.7	-6.4
2 パルプ・紙・紙加工品		190.1	-7.5	-52.5	-2.2	39.4	-32.7	51.5	145.6
3 化学工業		-11.4	22.3	-5.9	-4.9	-33.2	-26.5	185.8	-50.1
4 石油製品・石炭製品		46.8	-35.3	-2.9	-25.8	-31.6	54.2	223.4	-82.2
5 鉄鋼業		13.3	-12.2	10.2	1.2	-23.6	-6.3	23.9	-1.3
6 非鉄金属		48.5	-21.8	52.4	-9.9	-30.4	40.3	-25.2	48.4
7 金属製品		20.0	-1.1	-13.7	7.9	-13.8	2.3	26.5	-14.1
8 一般機械		3.5	10.0	-3.0	-3.4	-9.6	-1.3	21.3	-7.6
9 電気機械		7.5	6.5	1.1	-16.0	-34.0	24.6	-1.1	-3.9
10 情報通信機械		16.1	-9.9	12.5	-9.9	-31.1	-0.5	30.2	-6.0
11 自動車・同付属品		-2.7	8.0	5.3	-0.8	-5.4	3.9	-7.6	-1.3
12 造船業		-19.3	8.3	24.5	21.2	-54.6	52.3	-39.7	34.8
13 その他輸送用機械		2.0	23.5	-11.9	-23.8	61.3	-35.6	6.4	43.2
14 精密機械		11.9	12.9	-12.0	-1.7	-24.4	33.6	2.3	-16.2
15 「その他製造業」		1.2	8.6	30.4	-20.1	2.3	17.6	1.7	-5.7
II 非製造業計		2.4	4.3	3.7	-8.7	-19.9	-3.6	13.7	-12.7
16 農林漁業		4.8	7.9	5.3	-35.9	-2.9	-7.3	7.7	-9.0
17 鉱業・採石業・砂利採取業		13.0	6.7	1.5	-2.0	-5.6	-30.2	61.4	195.6
18 建設業		-5.5	11.2	-11.9	12.8	-19.1	26.2	-12.4	12.1
19 電力業		19.7	1.1	23.8	-21.5	0.3	-35.1	97.7	-49.9
20 運輸業・郵便業		-9.7	8.8	24.1	-8.8	-35.3	-18.2	22.4	-3.6
21 通信業		1.9	1.1	8.6	-15.1	12.7	-15.3	0.3	-4.7
22 卸売業・小売業		-10.1	20.7	-16.1	18.2	-47.1	10.8	-2.2	-2.2
23 金融業・保険業		-18.2	14.4	-16.3	21.5	-30.0	-4.6	-2.8	-19.4
24 不動産業		3.2	12.4	-25.0	98.5	23.3	-5.5	-25.5	-5.5
25 情報サービス業		8.1	-6.1	-0.3	-7.0	-6.5	-4.8	-3.3	-1.3
26 リース業		2.7	6.5	-21.9	7.7	-29.8	11.2	-27.5	219.9
27 「その他非製造業」		7.8	4.8	5.6	-13.3	-16.3	-8.0	15.9	-2.2

- (備考) 1. 季節調整系列の対前期(月)増減率。
 2. 「一般機械」は、「はん用・生産用機械」と「事務・サービス・娯楽用機械」の合計。
 3. 「精密機械」は、「業務用機械」から「事務・サービス・娯楽用機械」を除いたもの。
 4. 「その他製造業」には、「繊維工業」、「窯業・土石製品」を含む。

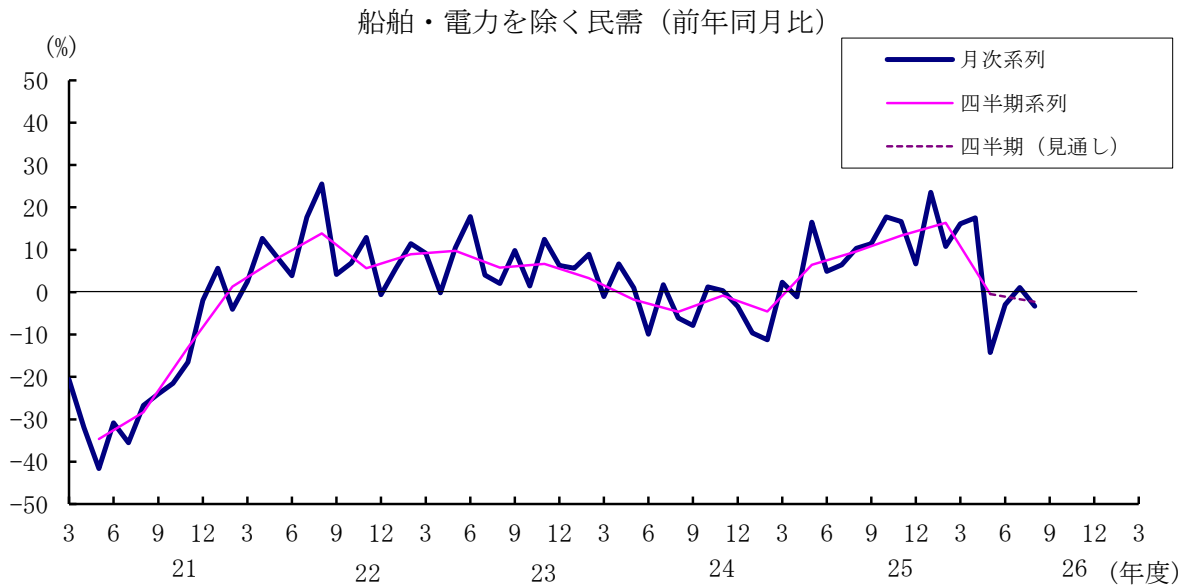
第3図 受注額、販売額、受注残高、手持月数 (総額、季節調整値)



<参考1> 需要者別の機械受注動向（原数値）

26年8月の受注総額は、1兆9,312億円で前年同月比0.4%増、「船舶を除く総額」では同0.3%増となった。

第4図 機械受注額の動向



（備考）「26年7～9月（見通し）」の計数は、「見通し調査（26年6月末時点）」による。

需要者別にみると、民需は7,608億円で前年同月比8.2%減（船舶を除くと同8.0%減、船舶・電力を除くと同3.3%減）、官公需は1,595億円で同22.8%減、外需は9,195億円で同14.9%増、また、代理店は914億円で同5.3%増となった。

民需のうち、製造業からの受注は、前年同月比2.5%増となった。これを業種別に前年同月比でみると、15業種中、パルプ・紙・紙加工品(343.6%増)、非鉄金属(91.4%増)、一般機械(14.4%増)、「その他輸送用機械」(10.5%増)、化学工業(4.5%増)、情報通信機械(4.5%増)等の11業種が増加となった。反面、石油製品・石炭製品(79.2%減)、食品製造業(33.4%減)、電気機械(12.5%減)等の4業種は減少となった。

また、非製造業からの受注は、前年同月比13.6%減となった。これを業種別に前年同月比でみると、12業種中、鉱業・採石業・砂利採取業(374.4%増)、リース業(107.9%増)、建設業(9.0%増)、不動産業(3.9%増)等の6業種が増加となった。反面、農林漁業(40.3%減)、電力業(35.4%減)、金融業・保険業(31.9%減)、情報サービス業(21.9%減)等の6業種は減少となった。

<参考2> 機種別の受注額、販売額、受注残高（原数値）

1. 機種別

(1) 受注額

26年8月の受注額を機種別に前年同月比で見ると、航空機(36.6%増)、工作機械(33.3%増)、産業機械(18.9%増)、道路車両(16.0%増)及び船舶(3.7%増)で増加となった。反面、原動機(17.5%減)、電子・通信機械(15.2%減)、重電機(13.1%減)及び鉄道車両(7.3%減)で減少となった。この結果、合計では前年同月比0.4%増となった。

また、民需からの受注額を機種別に前年同月比で見ると、鉄道車両(55.3%増)、航空機(45.7%増)、工作機械(27.9%増)及び道路車両(13.8%増)で増加となった。反面、船舶(37.5%減)、重電機(16.7%減)、原動機(14.0%減)、電子・通信機械(13.5%減)及び産業機械(4.6%減)で減少となった。この結果、合計では前年同月比8.2%減となった。

第3表 民需の機種別機械受注の伸び

(単位：%)

	平成25年 7～9月	10～12月	平成26年 1～3月	4～6月	平成26年 5月	6月	7月	8月
民需総額	9.9	14.0	18.5	2.1	-9.0	-4.9	7.0	-8.2
原動機	5.2	3.1	29.1	16.7	46.1	-15.7	72.6	-14.0
重電機	16.8	43.5	14.4	5.4	12.6	24.9	7.1	-16.7
電子・通信機械	3.7	7.4	9.5	-3.5	-13.0	-7.5	-9.6	-13.5
産業機械	18.2	17.3	16.9	-0.4	-14.3	-2.0	-0.1	-4.6
工作機械	14.7	43.2	29.0	29.7	22.7	35.6	34.2	27.9
鉄道車両	-17.0	-13.9	30.5	1.9	-53.1	-43.6	36.4	55.3
道路車両	26.3	29.4	27.9	6.8	11.7	5.6	11.7	13.8
航空機	-4.6	111.9	265.4	-58.9	-75.0	-56.7	40.1	45.7
船舶	248.8	59.7	11.4	356.0	157.3	58.9	160.3	-37.5

(備考) 原系列による対前年同期(月)増減率。

(2) 販売額

8月の販売額を機種別に前年同月比で見ると、船舶(40.1%増)、工作機械(38.2%増)、航空機(21.8%増)、重電機(18.0%増)、電子・通信機械(5.2%増)及び道路車両(2.5%増)で増加となった。反面、原動機(47.1%減)、鉄道車両(0.7%減)及び産業機械(0.6%減)で減少となった。この結果、合計では前年同月比0.9%減となった。

(3) 受注残高

8月の受注残高を機種別に前年同月比で見ると、船舶(36.8%増)、産業機械(21.9%増)、道路車両(18.2%増)、工作機械(10.6%増)、原動機(10.6%増)、鉄道車両(9.4%増)、電子・通信機械(8.4%増)、重電機(6.5%増)及び航空機(3.7%増)のすべてで増加となった。この結果、合計では前年同月比14.1%増となった。

2. 鉄構物、軸受、電線・ケーブル

(1) 鉄構物

8月の受注額は、217億円で前年同月比9.5%増、販売額は、172億円で同4.9%増、受注残高は、4,717億円で同0.3%増となった。

(2) 軸受

8月の受注額は、464億円で前年同月比1.9%増、販売額は、488億円で同2.7%増、受注残高は、788億円で同26.6%減となった。

(3) 電線・ケーブル

8月の受注額は、910億円で前年同月比1.5%減、販売額は、927億円で同2.2%増、受注残高は、1,016億円で同20.5%減となった。

機 械 受 注 実 績 調 査 統 計 表
目 次

[グラフ]

第 1 図	主要需要者別受注額 -----	10
第 2 図	主要業種別受注額 -----	13
第 3 図	主要機種別受注額 -----	17

[計 数 表]

	需要者別受注額（季調系列） -----	18
	機種別受注残高手持月数（季調系列） -----	23
	需要者別受注額（原系列） -----	24
	機種別受注額（ 〃 ） -----	29
	機種別販売額（ 〃 ） -----	33
	機種別受注残高（ 〃 ） -----	37
	機械受注統計調査結果表（平成 26 年 8 月実績） -----	41
（参考）新需要者分類		
	機械受注統計調査結果表（平成 26 年 8 月実績） -----	45

(別紙)

	調査票分類と移行期表章分類 -----	49
--	---------------------	----

(巻末)

	季節調整の検討結果 -----	50
--	-----------------	----